

# 第 118 回実践勉強会 実施レポート

2020 年 8 月 24 日 大田区薬剤師会共催

共催中外製薬

参加者 73 名

＜令和2年 8 月 24 日(月) 実践勉強会

演者:東邦大学医療センター大森病院 血液・腫瘍科 講師 長瀬 大輔 先生

「悪性リンパ腫の治療と最近の話題」

質問 1 : 抗体単剤での効果はあるのか？

回答 1 : 一部効果はあるが、限定的である。

FL (濾胞性リンパ腫) の腫瘍限局性で、腫瘍量が少ない場合であればリツキサン単剤が GL でも推奨されているケースもあるが、DLBCL (びまん性 B 細胞型リンパ腫) などの進行が早い場合には併用が使われている、という状況である。

質問 2 : CHOP の免疫学的効果について？

回答 2 : CHOP によるリンパ球減少によって NK 細胞などが減少してしまい、リツキサンの ADCC 効果が薄まってしまうのではないかと？

回答 2 : CHOP での細胞障害による効果の差を見ているような試験は今この場では思いつかない。ステロイドの免疫抑制がリツキサンの効果を減弱させる可能性があると言われていたが実際に実臨床で検討された試験はなく、臨床上でも大きな差を感じることはない。

質問 3 : リツキサン登場前の濾胞性リンパ腫の予後は 7-10 年、リツキサン登場後でさらに 1.5-2 倍に予後が延長している、Ⅲ期以降の進行期でも予後が良いのは何故なのか？

回答 3 : 濾胞性リンパ腫は腫瘍細胞が増殖期に入るのが遅い疾患であるという特徴がある。また腫瘍内で増殖期に入っている細胞と、入っていないものがあり増殖期の細胞は殺細胞性抗がん剤が効くが、入っていない細胞は生き残って増殖期に入ると再発、という経過をたどるので、経過が長くなるため、通常でも予後が長い。

リツキサンは増殖期に入る入らないに関わらず効果を発揮するので予後がより延長してきていることと、維持療法が入ってくるようになり、再発予防の効果がより強くなっている。